

- [分類] 普及技術
 [成果名] セルリー斑点病防除にスコア顆粒水和剤が有効である
 [要約] セルリー斑点病防除にスコア顆粒水和剤の 2,000 倍液を散布する。なお、薬剤耐性菌の出現を回避するため、本剤の連続使用はしない。
 [担当] 野菜花き試験場環境部
 [部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

セルリーの栽培上、斑点病はいずれの産地でも常発する重要病害となっている。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、セルリーに対する薬害の有無を検討した。試験は平成 18 年、19 年および 20 年に実施し、平成 26 年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

- (1) セルリー斑点病防除にスコア顆粒水和剤の 2,000 倍液を散布する。なお、薬剤耐性菌の出現を回避するため、本剤の連続使用はしない。

農薬登録内容

スコア顆粒水和剤

- [一般名及び成分含有量] ジフェノコナゾール 10.0% (FRAC コード^{注)}:3)、
 [毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] B類 (有効成分として)
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)]

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	ジフェノコナゾールを含む農薬の使用回数
セルリー	斑点病	2,000 倍	200~400 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

注)FRAC コードとは FRAC (殺菌剤耐性菌対策委員会) が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は Japan FRAC のホームページ (<http://www.jfrac.com/>) を参照する。

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は EBI 剤であり、薬剤耐性菌が出現する危険性がある。耐性菌出現回避のため連用、多回数使用は避け、作用機構の異なる薬剤とのローテーションによる使用とする。
 (2) 蚕に対して影響があるので、桑葉にかからないように注意する。

4 対象範囲

セルリー栽培地域 257ha

5 具体的データ

- (1) スコア顆粒水和剤のセルリー斑点病に対する試験を野菜花き試験場内ほ場 (長野市) で実施した。平成 18 年は少発生条件下の試験となった。本剤の 2,000 倍液は、無処理との比較で高い防除効果が認められた。薬害は認められなかった (表 1)。

表1 セルリー斑点病に対するスコア顆粒水和剤の防除効果（平成18年、野菜花き試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
スコア顆粒水和剤	2,000	20.0	6.7	2.2	90.6	なし
無処理		20.0	63.3	23.3		

a) : 発病度 = Σ (発病指数 × 株数) × 100 / (3 × 調査株数)

程度別発病指数 0 : 発病を認めない、1 : 下葉の一部に病斑が認められる、2 : 下葉の多く、および上位葉の一部に病斑が認められる、3 : 上位葉の多くに病斑が認められる

b) : 防除価 = (無処理区の発病度 - 処理区の発病度) × 100 / 無処理区の発病度

試験場所：野菜花き試験場 場内ほ場（長野市松代町） 品種：「コーネル619」 定植：8月22日

区制・面積：1区8.0m² 40株/区 3連制 対象病害の発生状況：少発生

処理方法：10月4日、12日、18日および25日の4回、所定濃度の薬液を10aあたり250Lの割合で散布した。

調査方法：10月31日に各区の20株について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(2) 平成19年の試験は多発生条件下の試験となった。本剤の2,000倍液は、無処理との比較で防除効果が認められた。薬害は認められなかった（表2）。

表2 セルリー斑点病に対するスコア顆粒水和剤の防除効果（平成19年、野菜花き試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査葉数	発病葉率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
スコア顆粒水和剤	2,000	86.7	22.8	9.0	82.2	なし
無処理		93.3	81.9	50.6		

a) : 発病度 = Σ (発病指数 × 葉数) × 100 / (3 × 調査葉数)

程度別発病指数 0 : 発病を認めない、1 : 葉の一部に病斑が認められる、2 : 葉の1/3~1/2に病斑が認められる、3 : 葉の1/2以上に病斑が認められる

b) : 表1と同じ

試験場所：野菜花き試験場 場内ほ場（長野市松代町） 品種：「コーネル619」 定植：8月23日

区制・面積：1区2.0m² 10株/区 3連制 対象病害の発生状況：多発生

処理方法：9月25日、10月2日、10日および16日の4回、所定濃度の薬液を10aあたり250Lの割合で散布した。

調査方法：10月31日に各区の10株の下位葉~中位葉10葉について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(3) 平成20年の試験は中発生条件下の試験となった。本剤の2,000倍液は対照薬剤のアミスター20フロアブルの2,000倍液と比較して、同等の防除効果であった。無処理と比較して高い防除効果が認められた。薬害は認められなかった（表3）。

表3 セルリー斑点病に対するスコア顆粒水和剤の防除効果（平成20年、野菜花き試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査葉数	発病葉率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
スコア顆粒水和剤	2,000	75.0	1.8	0.6	98.4	なし
アミスター20フロアブル	2,000	75.0	2.2	0.9	97.6	
無処理		75.0	59.1	37.3		

a)、b)：表2と同じ

試験場所：野菜花き試験場 場内ほ場（長野市松代町） 品種：「コーネル619」 定植：8月23日

区制・面積：1区3.0m² 15株/区 3連制 対象病害の発生状況：中発生

処理方法：10月3日、10日、16日および23日の4回、所定濃度の薬液を10aあたり250Lの割合で散布した。

調査方法：10月27日に各区の15株の中位葉5葉について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きおよび畑作物の新規農薬等の効果試験、平成18～20年度（2006～2008年度）、協力研究